

◎グループディスカッションでの意見出し（1班）

岡山市、津山市、高梁市、瀬戸内市、赤磐市、矢掛町

**[テーマ③]**

地域住民に対するアプローチと支援者の掘り起こし

- 行政が汗をかく
- 当事者と関係者
  - 要支援者本人、消防団、町内会、民生委員、小地域ケア会議、自主防災組織
- 個別避難計画の作成に向けて（地域住民へのアプローチ手段）
  - 広報紙やテレビでPR、他地域を見せる、説明会、町内会長に対する計画作成の講習会を開催、オンライン会議、個別避難計画や防災訓練の開催、個別の面談
- 少しずつ分担、できること小さなことから
- 住民同士で何ができるか考える場、中心になる人（団体・組織）の把握、自分の得意なこと、地域で生かせることを教えてもらう、住民同士のつながりに少しプラスする
- 災害を我が事にする、日常の中に入れる
- 避難行動要支援者名簿の作成に関与している民生委員が中心

**[テーマ④]**

真に支援が必要な者の抽出～アセスメントの枠組みと方法～

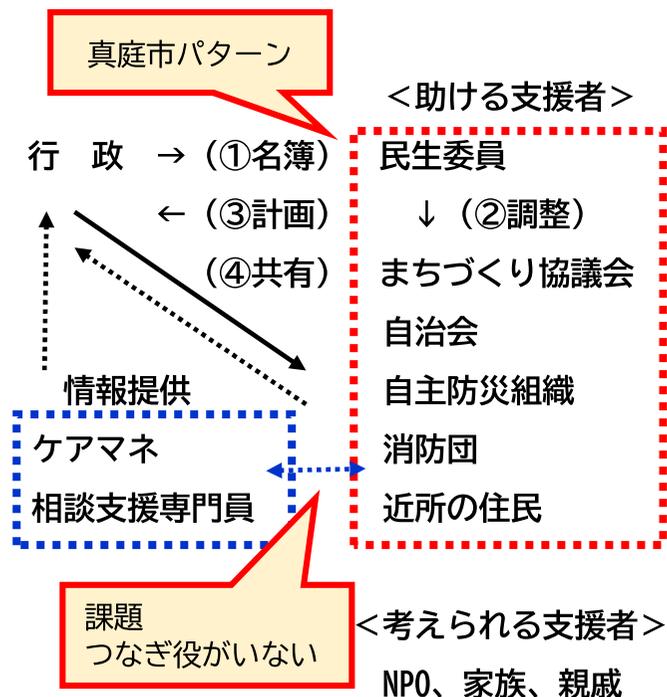
- 対象者
  - 水害や土砂災害が起こる可能のある危険な場所に住んでいる人、介護が必要な方、高齢者、交通弱者、障害のある方で障害者手帳の交付を受けている人と受けていない人、避難する必要があることが自分でわからない人、情報弱者、引きこもりの人
- 抽出方法
  - 独居（サービス利用の有無から抽出）、普段の様々な活動の中で掘り起こし、簡易なチェックリスト等の活用、ケアマネの協力体制、民生委員の協力、保健師、自主防災組織の協力体制

◎グループディスカッションでの意見出し（2班）

倉敷市、玉野市、新見市、瀬戸内市、真庭市、矢掛町

[テーマ③]

地域住民に対するアプローチと支援者の掘り起こし



○矢掛町パターン

名簿作成 25人

まずは住民で勉強、情報共有

福祉専門職に対しても今後協力を依頼

[テーマ④]

真に支援が必要な者の抽出～アセスメントの枠組みと方法～

●真に支援が必要な人とは

同意、不同意の際に合わせて書いてもらう

同意を得る

→ [課題] 名簿掲載者の数が多すぎる、名簿作成を行う部局と計画作成を行う部局の相違、フィルターをかけにくい、どこの部局が必要な者の抽出を行うか

→ [共有・教育・支援] 関係団体を防災部局で持っていない、ケアマネ、自主防災会は受けたがらない、コミュニティを維持するためにはどこと協力すればよいかわからない、職員数と名簿掲載者数

→ 社会福祉協議会の名簿を使って民生委員と自主防災組織で作成、民生委員の集まりで共有・依頼、自主防災組織の協議会で共有・依頼

→ 更新問題、計画の中身にバラツキがある

→ それでも作成できなかった人をどうするか

◎グループディスカッションでの意見出し（3班）

倉敷市、玉野市、新見市、瀬戸内市、真庭市、勝央町

**[テーマ①]**

市町村における計画作成の推進体制及び庁内連携

- 新見市 対象者 1,600人 うち同意あり 1,200人
- 勝央町 対象者 1,465人 同意あり
- 倉敷市 対象者 100,000人 うち同意あり 37,000人
- 真庭市 対象者 1,400人 うち同意あり 60%
- 玉野市 対象者 1,700人 うち同意あり 741人

- ケアマネ→市→社会福祉協議会、民生委員、自主防災組織
- 自主防災組織、社会福祉法人の協会、社会福祉協議会、民生委員、  
地区社会福祉協議会、介護支援専門員協会、自立支援相談員、  
自治会担当
- 精神の方の避難先
- 福祉避難所が決まらない、施設がハザード内にある

**[テーマ④]**

真に支援が必要な者の抽出～アセスメントの枠組みと方法～

- ハザードの抽出、要介護度3以上、身体障害者1・2級
- 行政からのアプローチ  
→ ケアマネ、民生委員、社会福祉協議会、自主防災組織の協力
- つき合いのない人をどうするか、対象漏れの人がないか、引きこもり、外国人等

◎グループディスカッションでの意見出し（４班）

倉敷市、笠岡市、新見市、赤磐市、真庭市、勝央町

**[テーマ①]**

**市町村における計画作成の推進体制及び庁内連携**

- 防災と福祉が連携をとることが重要、福祉部局と仲が悪い
- 福祉と防災が仲良くなる、顔を合わせる機会を増やす、対象者を扱う課を巻き込む
- 自主防災組織と消防団の違いも知らない人がいる、仕事量が多く連携する時間がない、庁内の連携だけでなく地域の連携も必要
- 専門部署を立ち上げる
- 避難行動要支援者をシステム共有する

**[テーマ④]**

**真に支援が必要な者の抽出～アセスメントの枠組みと方法～**

- 計画作成について
  - 自主防災組織を主体に作成、自主防災組織に作成をまかせている、自主防災組織全体に作成を依頼、個別避難プランの作成（名簿を組む）は自主防災組織を中心に作成
- 計画作成に向けて（一緒にやってほしい）
  - 様々な組織が集まる場で説明、地域の複数団体に一緒に説明会に来てもらう
  - 各部局の連携が大切、庁内連携
- 様々な取組
  - [モデル] 計画作成の説明会を開催、積極的な地区をモデルとして取組 を推進、意欲ある自主防災組織を一本釣り
  - [福祉専門職の参画] 福祉専門職による計画作成も始める、ケアマネ協会等の支援者側の連携
  - [手引き] 手引きを福祉部が作成、組織のマニュアル化も
  - [住民への広報] 出前講座、支援される側へのアプローチ、地域住民への広報手段、障害者団体に声掛け

◎グループディスカッションでの意見出し（5班）

倉敷市、笠岡市、備前市、赤磐市、和気町、美咲町

**[テーマ①]**

**市町村における計画作成の推進体制及び庁内連携**

- 防災と福祉の連携、新しい取組なのでどの部署が主で行うか、名簿の見直し（福祉？）、地区への呼び掛け（防災）
- 防災は危機管理の担当、名簿の見直し（対象者の絞り込み）
- 防災と福祉のどちらが主体か、福祉部局の職員の兼務の可能性
- 全体で取り組み、町づくり課を介して全体（関係者）を巻き込む

**[テーマ②]**

**地域における計画作成の体制～既存組織や会議等の活用～**

- 各団体の研修会等で説明、民生委員への協力、
- 計画の内容について説明ができないので、まずは区長会への説明が必要
- 地域の組織が多すぎる、どこに話を持っていくべきか（自主防災組織、民生委員、まちづくり協議会、町内会、公民館、行政協力委員）
- 自主防災組織の積極的な関わり
- まちづくり単位（旧村単位）体制、自主防災組織や自治会の共同体

◎グループディスカッションでの意見出し（6班）

倉敷市、笠岡市、備前市、赤磐市、和気町、美咲町

[テーマ③]

地域住民に対するアプローチと支援者の掘り起こし

- 地域への説明、地域ごとに話し合いを実施、要支援者（名簿）が住民に知られていない、自助・共助の重要性の認識
- 自主防災組織はあるが、それぞれが活動しているため、他の団体との協力体制が構築されていない、地域によって防災に対する意識に差がある
- 固定化したメンバー（住民）
- 要支援者ばかりの集落で支援者となるべき若く動ける人がほとんどいない、高齢者世帯が多い（支援者の不足）、日中の支援者の確保、男性だけの選出、地域のつながり、特に若年層、高齢化
- デリケートな情報の共有に対する抵抗感
- 自主防災組織、民生委員、防災部局による連携会議の開催
- 情報と支援者の分別
- 障害等の区分や内容について情報をどこまで出せるか
- 地域の人たちはある程度の情報は共有できている

[テーマ④]

真に支援が必要な者の抽出～アセスメントの枠組みと方法～

- 地域で孤立している人の情報が集まりにくい、近所の関心の薄さ、近所づきあいや町内会の加入も拒否している世帯がある、支援してほしいと手を挙げることのできない人を抽出できていない
- 個人アンケートかあの民生委員による審査、地域での会議で支援が必要な者を気にかける、社会福祉協議会、ケアマネからの情報提供、市の基準に漏れた人たちは自主防災組織や地域の方に支援が必要かどうかの判断が任せられている、世帯からの情報、支援員、ヘルパーからの情報、組織の連携、資格や認定を持っていない人の情報が把握できていない、住民票情報と実情が異なる（世帯分離など）
- 日中と夜間の支援の必要性の違い、名簿作成を優先していたため、その先の支援の考え方が抜けている、名簿掲載者数が多い（自力で避難できる人が掲載されている）、本人は知られることがイヤでも支援が必要な方の対応をどうするか

◎グループディスカッションでの意見出し（7班）

津山市、高梁市、瀬戸内市、赤磐市、和気町

**[テーマ①]**

市町村における計画作成の推進体制及び庁内連携

- 名簿の共有
- システムの整備
- 防災部局と福祉部局の連携がとれていない、庁内組織の見直しが必要、スピード感

**[テーマ④]**

真に支援が必要な者の抽出～アセスメントの枠組みと方法～

- 住民の情報共有、消防団との連携、自主防災組織をどこまで活用できるか、地域での話し合いが必要、緊急時に計画が活用できるか、避難所での生活においてどのような支援が必要か